

アフタースクール 社会的インパクト評価について

2016年3月

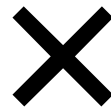
評価の柱

①活動への参加人数（アウトプット）

- ・ 事業 K P I
- ・ 社会性 K P I

②エンパワーメント（アウトカム）

- ・ アンケートによる満足度およびエンパワーメントの調査
- ・ ヒアリング調査



5つのステークホルダー

子ども、保護者、学校、市民先生、企業

K P I (アウトプット：活動への参加人数)

KPI種類	受益者	KPI
事業KPI		スタッフ数
		企業数
		市民先生の数
		企業・行政イベント等参加のべ人数
社会性KPI	子ども	アフタースクールへの参加のべ人数
		アフタースクールへの実人数
		学校数
		公立校数
	市民	市民先生の数
		企業の参加数

K P I (アウトカム：エンパワメント)

	KPI	小項目	やり方
子ども	<満足度調査>	・アフタースクールに行ってみてどうか	・アンケートによる5段階調査
	<エンパワメント> ①アカデミック	・学校が好きになったか ・勉強は楽しいか	・アンケート実施、5段階で各項目調査 ・アンケートは1回実施、インターネット調査と比較
	②コンフィデンス	・自分に自信があるか ・自分のことは好きか ・新しいことにチャレンジしたいと思うか ・自分の得意なことはあるか	
	③エモーショナル	・色々な性格や他の学年の子と遊ぶか ・自分と違う意見をよくきけるか	
保護者	<満足度調査>	・知人や友人にどの程度おすすめできるか	・NPSによる調査
	<エンパワメント> ①親子関係、子どもの成長	・子どもの好きなことを知っているか	・アンケート実施、5段階で各項目調査 ・アンケートは1回実施、インターネット調査と比較
	②自分の生活、人生の充実	・自分の時間が持てているか	
	③安心して仕事ができる、 インフラ整備	・安心して仕事ができているか	
④就労への貢献	・仕事・共働きに貢献しているか	貢献、復帰、貢献していないの選択	
学校	<エンパワメント> ①意識変化(保護者)	・学校との連携	・アンケート実施
	②意識変化(学校)	・学校や授業の中でどのような影響があったか	・学校長等へのヒアリング
市民先生	市民先生の声	・活動に参加してどう感じたか	・ヒアリング
企業	企業の声	・活動に参加してどう感じたか	・ヒアリング

アンケート調査の内容

<調査対象>

○実数

2014年：アフタースクール5校+企業等イベント参加者

2015年：アフタースクール9校+企業等イベント参加者

○アンケート

2014年：私立小アフタースクール1校（214名）

2015年：私立小アフタースクール2校（315名）

公立小アフタースクール2校（151名）

合計466名

○比較データ

248名（小学1～3年生のお子様を持つ保護者を対象にインターネット調査にて2014年に実施）

アンケート調査の内容（詳細）

<2015年度アンケート調査対象詳細>

2014年度

学年	1	2	3	4	5	6	未記入	合計
人数	43人	46人	38人	30人	38人	16人	3人	214人
割合	20%	21%	18%	14%	18%	7%	1%	100%

2015年度（私立小）

学年	1	2	3	4	5	6	未記入	合計
人数	63人	67人	51人	51人	45人	38人	0人	315人
割合	20%	21%	16%	16%	14%	12%	0%	100%

2015年度（公立小）

学年	1	2	3	4	5	6	未記入	合計
人数	54人	35人	30人	11人	17人	2人	2人	151人
割合	36%	23%	20%	7%	11%	1%	1%	100%

2015年度（総合）

学年	1	2	3	4	5	6	未記入	合計
人数	117人	102人	81人	62人	62人	40人	2人	466人
割合	25%	22%	17%	13%	13%	9%	0%	100%

※2014年度と2015年度の学年構成比は概ね同じ

参加人数（子ども、保護者、学校、市民先生・企業）

KP種類	受益者	KPI	2013	2014	2015				実績計	前年比	2016 計画)
					Q1	Q2	Q3	Q4			
					実績	実績	実績	実績			
事業KPI		スタッフ数	5	13	22	22	22	22	22	169%	33
		企業数	28	35	13	10	8	9	40	114%	50
		市民先生の数	70	117	21	76	19	34	150	128%	200
		企業・行政イベント等参加のべ人数	2,419	5,688	299	2,279	389	533	3,500	62%	5,000
社会性KPI	子ども	アフタースクールへの参加のべ人数	35,816	52,372	23,869	25,720	24,578	25,833	100,000	191%	140,000
		アフタースクールへの実人数	497	959	1,704	1,928	2,035	2,000	2,000	209%	2,500
		学校数	3	5	8	10	10	10	10	200%	14
		公立校数	0	0	2	4	4	4	4	-	5
	市民	市民先生の数	213	269	102	137	122	139	500	186%	800
		企業の参加数	49	77	33	64	65	38	200	260%	300

※1-3月の数値は見込み
※千葉案件は含まず

<考察>

- ・2015年度のKPIにおいては、事業KPIと社会性KPIに分け分析
- ・アフタースクールへの「のべ参加人数」および「実人数」においては運営校増加により昨年度より概ね2倍の伸び
- ・アフタースクールへの市民先生や企業の参加が増加
- ・企業・行政イベント参加のべ人数減少は港区事業撤退による
- ・来年度は公立小を中心に運営校拡大予定

エンパワーメント（満足度）

<子ども>

		アフタースクールに行ってみてどうか？【とても楽しい-5/楽しくない-1】								
		回答	5	4	3	2	1	合計	4・5合計	
2014年度	総合	人数	46人	55人	35人	6人	3人	145人	101人	
		割合	32%	38%	24%	4%	2%	100%	70%	
2015年度	総合	人数	161人	133人	69人	16人	5人	384人	294人	
		割合	42%	35%	18%	4%	1%	100%	77%	
	私立小	人数	102人	88人	45人	13人	4人	252人	190人	
		割合	40%	35%	18%	5%	2%	100%	75%	
	公立小	人数	59人	45人	24人	3人	1人	132人	104人	
		割合	45%	34%	18%	2%	1%	100%	79%	

<考察>

・子どもの満足度は**77%**が満足と回答、昨年度より上昇

・私立小と公立小の満足度に特に差異は見られず、総合してアフタースクールへの一定の評価を得られた

<保護者>

		アフタースクールを友人、知人にどの程度薦めたいですか 【非常に薦めたい-10/全く薦めたくない-0】														
		推奨度	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	合計	NPS	
2014年度	総合	人数	42人	11人	35人	17人	6人	31人	1人	4人	0人	0人	1人	148人	148人	
		割合	28%	7%	24%	11%	4%	21%	1%	3%	0%	0%	1%	100%	7%	
2015年度	総合	人数	134人	30人	92人	33人	16人	48人	4人	3人	2人	3人	6人	371人	371人	
		割合	36%	8%	25%	9%	4%	13%	1%	1%	1%	1%	2%	100%	22%	
	私立小	人数	62人	22人	64人	26人	14人	42人	3人	3人	2人	3人	6人	247人	247人	
		割合	25%	9%	26%	11%	6%	17%	1%	1%	1%	1%	2%	100%	4%	
	公立小	人数	72人	8人	28人	7人	2人	6人	1人	0人	0人	0人	0人	124人	124人	
		割合	58%	6%	23%	6%	2%	5%	1%	0%	0%	0%	0%	100%	57%	

		プログラム【非常に薦めたい-10/全く薦めたくない-0】														
		推奨度	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	合計	NPS	
2014年度	総合	人数	43人	13人	40人	13人	6人	19人	2人	2人	0人	1人	2人	141人	141人	
		割合	30%	9%	28%	9%	4%	13%	1%	1%	0%	1%	1%	100%	17%	
2015年度	総合	人数	104人	23人	78人	36人	13人	41人	2人	3人	1人	0人	4人	305人	305人	
		割合	34%	8%	26%	12%	4%	13%	1%	1%	0%	0%	1%	100%	21%	
	私立小	人数	47人	17人	55人	17人	7人	27人	2人	3人	1人	0人	4人	180人	180人	
		割合	26%	9%	31%	9%	4%	15%	1%	2%	1%	0%	2%	100%	11%	
	公立小	人数	57人	6人	23人	19人	6人	14人	0人	0人	0人	0人	0人	125人	125人	
		割合	46%	5%	18%	15%	5%	11%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	34%	

・保護者の2015年度NPSは2014年度に比べ上昇、特に**公立校の数値が高い**のは、もともとアフタースクールがなかった学校だけに高い数値となった背景が考えられる

・私立小においても公立小と同等以上の満足度を得られるかが今後の課題

エンパワーメント（子ども・アカデミック）

学校が好きか		回答	5	4	3	2	1	合計	4・5合計
2014年度	総合	人数	63人	48人	32人	1人	3人	147人	111人
		割合	43%	33%	22%	1%	2%	100%	76%
2015年度	総合	人数	227人	86人	78人	16人	2人	409人	313人
		割合	56%	21%	19%	4%	0%	100%	77%
	私立小	人数	162人	58人	34人	12人	0人	266人	220人
		割合	61%	22%	13%	5%	0%	100%	83%
	公立小	人数	65人	28人	44人	4人	2人	143人	93人
		割合	45%	20%	31%	3%	1%	100%	65%
一般	人数	94人	82人	52人	13人	7人	248人	176人	
	割合	38%	33%	21%	5%	3%	100%	71%	

勉強が楽しい		回答	5	4	3	2	1	合計	4・5合計
2014年度	総合	人数	46人	44人	43人	11人	2人	146人	90人
		割合	32%	30%	29%	8%	1%	100%	62%
2015年度	総合	人数	117人	135人	104人	28人	13人	397人	252人
		割合	29%	34%	26%	7%	3%	100%	63%
	私立小	人数	75人	99人	67人	16人	8人	265人	174人
		割合	28%	37%	25%	6%	3%	100%	66%
	公立小	人数	42人	36人	37人	12人	5人	132人	78人
		割合	32%	27%	28%	9%	4%	100%	59%

<考察>

・学校が好きか、に対する回答は昨年度とほぼ同様の数値、一般と比べるとやや高い数値となった

・勉強が楽しいか、に対する回答は昨年度とほぼ同様、一般と比べても大きな差異はない結果に

・アカデミックの分野に関しては、アフタースクールが貢献しているとは言えない状況

エンパワーメント（子ども・コンフィデンス）

自分に自信がある		回答	5	4	3	2	1	合計	4・5合計
2014	総合	人数	37人	52人	40人	14人	3人	146人	89人
年度		割合	25%	36%	27%	10%	2%	100%	61%
2015	総合	人数	108人	125人	121人	32人	12人	398人	233人
年度		割合	27%	31%	30%	8%	3%	100%	59%
	私立小	人数	74人	83人	81人	19人	7人	264人	157人
		割合	28%	31%	31%	7%	3%	100%	59%
	公立小	人数	34人	42人	40人	13人	5人	134人	76人
		割合	25%	31%	30%	10%	4%	100%	57%
一般		人数	18人	55人	140人	29人	6人	248人	73人
		割合	7%	22%	56%	12%	2%	100%	29%

自分のことが好き		回答	5	4	3	2	1	合計	4・5合計
2014	総合	人数	59人	43人	31人	10人	3人	146人	102人
年度		割合	40%	29%	21%	7%	2%	100%	70%
2015	総合	人数	158人	111人	86人	25人	5人	385人	269人
年度		割合	41%	29%	22%	6%	1%	100%	70%
	私立小	人数	100人	87人	57人	15人	2人	261人	187人
		割合	38%	33%	22%	6%	1%	100%	72%
	公立小	人数	58人	24人	29人	10人	3人	124人	82人
		割合	47%	19%	23%	8%	2%	100%	66%

新しいことにチャレンジしたい		回答	5	4	3	2	1	合計	4・5合計
2014	総合	人数	73人	44人	22人	5人	2人	146人	117人
年度		割合	50%	30%	15%	3%	1%	100%	80%
2015	総合	人数	197人	118人	64人	13人	4人	396人	315人
年度		割合	50%	30%	16%	3%	1%	100%	80%
	私立小	人数	130人	80人	42人	10人	2人	264人	210人
		割合	49%	30%	16%	4%	1%	100%	80%
	公立小	人数	67人	38人	22人	3人	2人	132人	105人
		割合	51%	29%	17%	2%	2%	100%	80%
一般		人数	42人	80人	98人	22人	6人	248人	122人
		割合	17%	32%	40%	9%	2%	100%	49%

得意なことがある		回答	5	4	3	2	1	合計	4・5合計
2014	総合	人数	86人	46人	13人	1人	0人	146人	132人
年度		割合	59%	32%	9%	1%	0%	100%	90%
2015	総合	人数	248人	103人	33人	7人	3人	394人	351人
年度		割合	63%	26%	8%	2%	1%	100%	89%
	私立小	人数	168人	71人	20人	4人	2人	265人	239人
		割合	63%	27%	8%	2%	1%	100%	90%
	公立小	人数	80人	32人	13人	3人	1人	129人	112人
		割合	62%	25%	10%	2%	1%	100%	87%
一般		人数	62人	96人	64人	19人	7人	248人	158人
		割合	25%	39%	26%	8%	3%	100%	64%

<考察>

- すべての質問に関して昨年度とほぼ同様の数値が得られた一方、**一般に比べるとかなり高い数値**となった
- 特に社会課題の1つである自己肯定感やチャレンジ意欲に関する質問は、一般の回答よりも大きく上回りアフタースクールが**大きく貢献**していると言える

エンパワーメント（子ども・エモーショナル）

色々な性格や他の学年の子と遊ぶ		回答	5	4	3	2	1	合計	4・5合計
2014年度	総合	人数	44人	55人	33人	12人	2人	146人	99人
		割合	30%	38%	23%	8%	1%	100%	68%
2015年度	総合	人数	143人	113人	83人	37人	5人	381人	256人
		割合	38%	30%	22%	10%	1%	100%	67%
	私立小	人数	99人	80人	57人	25人	3人	264人	179人
		割合	38%	30%	22%	9%	1%	100%	68%
	公立小	人数	44人	33人	26人	12人	2人	117人	77人
		割合	38%	28%	22%	10%	2%	100%	66%
一般	人数	54人	88人	70人	25人	11人	248人	142人	
	割合	22%	35%	28%	10%	4%	100%	57%	

自分と違う意見を聞ける		回答	5	4	3	2	1	合計	4・5合計
2014年度	総合	人数	37人	62人	39人	7人	1人	146人	99人
		割合	25%	42%	27%	5%	1%	100%	68%
2015年度	総合	人数	93人	124人	118人	24人	6人	365人	217人
		割合	25%	34%	32%	7%	2%	100%	59%
	私立小	人数	67人	93人	86人	13人	4人	263人	160人
		割合	25%	35%	33%	5%	2%	100%	61%
	公立小	人数	26人	31人	32人	11人	2人	102人	57人
		割合	25%	30%	31%	11%	2%	100%	56%

<考察>

・エモーショナルに関する質問は、昨年度と同様もしくは下回る数値となった

・一方一般と比べるとやや高い数値が得られたものの、物足りない数値となった

・アフタースクールを運営していく上で、いろいろな友だちと遊ぶことは重要な要素の1つだが、普段の過ごし方も含めて改善していく必要がある

フリーアンサー

(子ども・アカデミック、コンフィデンス、エモーショナル)

「とにかく、子どもが「**学校が楽しい!**」と満足しています。ありがとうございます。」(子ども、アカデミック)

「親では教えられない様なプログラムが多数で、**新しい発見**が子どもにもあり良いと感じています。」

「習わせたり、やらせてみたいと思っていることでも、習い事や塾に通うとなると尻込みしてしまうことを、アフタースクールで学んだり**経験できるのがとても良い**と思う。」(子ども、コンフィデンス)

「**学年を超えて交流**がある。ゲームに走らない。友達とコミュニケーションがとれるところがよい。」

「アフタースクールで他学年の子とも遊べていい経験が出来ると思うが高学年になると**塾に行くお子さんも多くなり**、平日一緒に遊ぶ子も少なくなるようだ。」(子ども、エモーショナル)

エンパワーメント（保護者・子どもの成長／自分の生活）

		子どもの好きなこと得意なことを知っているか								
		回答	5	4	3	2	1	合計	4・5合計	
2014年度	総合	人数	33人	71人	45人	1人	1人	151人	104人	
		割合	22%	47%	30%	1%	1%	100%	69%	
2015年度	総合	人数	180人	181人	35人	3人	4人	403人	361人	
		割合	45%	45%	9%	1%	1%	100%	90%	
	私立小	人数	133人	114人	17人	1人	0人	265人	247人	
		割合	50%	43%	6%	0%	0%	100%	93%	
	公立小	人数	47人	67人	18人	2人	4人	138人	114人	
		割合	34%	49%	13%	1%	3%	100%	83%	
一般	人数	49人	121人	55人	21人	2人	248人	170人		
	割合	20%	49%	22%	8%	1%	100%	69%		

		自分の時間が持っているか								
		回答	5	4	3	2	1	合計	4・5合計	
2014年度	総合	人数	32人	54人	58人	4人	4人	152人	86人	
		割合	21%	36%	38%	3%	3%	100%	57%	
2015年度	総合	人数	67人	110人	142人	72人	17人	408人	177人	
		割合	16%	27%	35%	18%	4%	100%	43%	
	私立小	人数	57人	66人	80人	46人	13人	262人	123人	
		割合	22%	25%	31%	18%	5%	100%	47%	
	公立小	人数	10人	44人	62人	26人	4人	146人	54人	
		割合	7%	30%	42%	18%	3%	100%	37%	
一般	人数	26人	91人	80人	38人	13人	248人	117人		
	割合	10%	37%	32%	15%	5%	100%	47%		

<考察>

・子どもの好きなこと得意なことを知っているか、という質問に関しては、昨年度および一般に比べ大きく上回る数値が得られた

・アフタースクールを通して子どもが自分の好きなことを発見し、保護者にそれが伝わったと考えられる

・保護者の生活の充実を表す自分の時間が持っているか、という質問に関しては、昨年度および一般より低い数値となった

・まだまだアフタースクールは保護者の時間を確保できるまでの影響を及ぼしていない

エンパワーメント（保護者・インフラ整備、就労への貢献）

安心して仕事が出来ているか		回答	5	4	3	2	1	合計	4・5合計
2014年度	総合	人数	64人	44人	29人	1人	1人	139人	108人
		割合	46%	32%	21%	1%	1%	100%	78%
2015年度	総合	人数	106人	147人	82人	32人	15人	382人	253人
		割合	28%	38%	21%	8%	4%	100%	66%
	私立小	人数	76人	95人	55人	17人	6人	249人	171人
		割合	31%	38%	22%	7%	2%	100%	69%
	公立小	人数	30人	52人	27人	15人	9人	133人	82人
		割合	23%	39%	20%	11%	7%	100%	62%
一般	人数	16人	70人	91人	54人	17人	248人	86人	
	割合	6%	28%	37%	22%	7%	100%	35%	

アフタースクールは仕事・共働きへ貢献したか		回答	貢献	復帰	貢献なし	合計	合算
2014年度	総合	人数	65人	31人	7人	103人	96人
		割合	63%	30%	7%	100%	93%
2015年度	総合	人数	155人	54人	34人	243人	209人
		割合	64%	22%	14%	100%	86%
	私立小	人数	104人	39人	24人	167人	143人
		割合	62%	23%	14%	100%	86%
	公立小	人数	51人	15人	10人	76人	66人
		割合	67%	20%	13%	100%	87%

<考察>

・社会課題解決である子育てインフラ整備に関する質問では、昨年度の数値を下回ったものの、一般から比べると**高い数値**が得られた

・合わせて保護者の仕事・共働きへの貢献度も昨年度同様**高い数値**を得られている

・ただし、保護者が安心して仕事ができる環境をもっと高い水準で獲得するためにまだまだ改善の余地がある

フリーアンサー（保護者・親子関係、自分の生活、安心して仕事）

「父子家庭でも娘に寂しい思いをさせることなくやってこれました。ありがとうございます。」

（保護者、親子関係）

「親自身の時間を優先でき、ストレスが少なくなる。」

「学校にこの仕組みがあると、自分の時間を取れるし、時間のかかる用事をいれたいときにとても助かっている。ほかの学校のママたちにもうらやましがられます。」

（保護者、自分の生活）

「『小一の壁』という言葉にびくびくした春。今は安心して子どもをお願いし自信をもって仕事を続けている。」

「学童保育に申請中ですが待機児童です。アフタースクールがあるので仕事ができます。本当に助かっています。校内で遊べるので児童館のように一度帰宅しなくてよく、安心です。」

（保護者、安心して仕事）

エンパワメント（学校・意識変化）

■学校とアフタースクールについて

「**学校とアフタースクールと協働**で子育て支援をしていくことが、保護者を支えていく上で必要。」

（小学校校長）

「学校側と**より連携をとって活動**してほしい。学校での生活態度や体・心の変化などの共有をしていただけるとありがたい。」

（保護者）

「アフタースクールは今や保護者にとって**無くてはならない存在**。時代の流れからしても、絶対に必要と肌で感じている。」

（学校教員）

「アフタースクールから**子どもの様子やご家庭の状況を教えていただける**のは、学校にとっても大変助かることがある。」

（学校教員）

エンパワーメント（市民先生・感想、ご意見）

■市民先生の声

manami moritaさん（ジャズピアニスト）

「音楽の楽しさを子どもたちに伝えるのは難しいけれど面白い。今後もぜひ一緒にやっていきたいです。」

福田恭巳さん（スラックライン世界チャンピオン）

「全国各地、子どもたちの個性が異なり面白い。また全国実施の機会をいただけることはスラックライン振興も進みありがたいです。」

将棋の市民先生

「みんな次の一手をすごく真剣に考えていました。実況中継をしてくれる子もいて賑やかで元気いっぱいでした。とっても将棋が好きなんだなと思い嬉しくなりました。これからも続けてほしいです。」

学校卒業生OB（映画監督）

「子どもとのプログラムは初めてでした。子どもっていいな、と思いながら、教えるのではなく一緒に楽しんでいました。みんなに意見を求めると沢山手があがったのでとても積極的で驚きました。」

大学生（東京理科大学 化学研究部）

「子どもたちと触れ合ってとても楽しかったです。子どもたちが難しそうな表情をしていた時に、近くに行って身振り手振りで説明したり丁寧に話したりしたら、納得してもらって嬉しかったです。」

エンパワーメント（市民先生・感想、ご意見）

■市民先生の声

あやとりの市民先生

「初めてあやとりをする子もいましたが、最後はまだまだやりたい！と言ってくれてすごく嬉しかったです。幼稚園児も小学生もとっても**集中力**があって、驚きました。」

色彩デザインの市民先生

「1つ1つの色の変化に対する表現が面白かったです。色と色がまざりあう状態を『関ヶ原の戦い（せめぎあいという意味）だ！』と言っていたのは面白かったですね。是非色んな企画を行って子どもたちの**想像力**をどんどん広げたいです。」

衣服のデザインの市民先生

「理解しづらい話やうまく説明できなかつたところもあったと思いますが、一生懸命聞いてくれている子がいてとても嬉しかったです。最初は難しい、めんどろと言いながらもだんだん夢中になって作業している姿が見られてやってよかった。子どもたちと一緒に洋服をつくることは普段できないので、**なかなかできた経験**ができたことがとても嬉しかったです。」

日本折紙協会

「東京ソラマチのような場所で、大人も子どもも**夢中**で折紙を楽しむ機会を提供できて、嬉しかった。またお役にたてることがありましたらお声かけください。」

日本ボッチャ協会

「パラリンピック競技ボッチャは2020年オリンピックに向け、知名度を上げていかなければならないため、多くの子どもたちが参加できる**放課後を使った機会**はありがたい。またぜひご一緒させてください。」

エンパワーメント（企業・感想、ご意見）

■企業の声

A社

「全国の学童クラブのみなさんが喜んでくれて嬉しい。また各地の元気いっぱいの子どもたちからも元気をもらえる。」

B社

「一緒やってきた活動が地域に根付いてきたことを嬉しく思う。私たちのスキルが役立ち、誰でも参加できる形にしてくれて助かる。」

C社

「子どもたちの自社事業に対するイメージの大きな変化を目の当たりにできた。この学びを全国に広めていきたい。」

D社

「食の問題、格差の問題を知ることができた。このプロジェクトを継続して行う意義を感じた。来年度から新入社員研修に取り入れたい。」

E社

「当初の予定よりも子どもの年齢層が低かったため、急遽プログラム見直しを依頼し、ご迷惑をおかけしたことと思う。それでも迅速に対応いただき後半は驚きの集客力だった。今後またお願いできたらと思っている。」

成果と課題のまとめ

ステークホルダー	項目	社会的インパクト評価	備考
子ども	満足度	○	
	アカデミック	△	社会課題である子どもの「自己肯定感の低さ」「チャレンジ意欲の低さ」への効果あり エモーショナルの効果は課題
	コンフィデンス	◎	
	エモーショナル	△	
保護者	満足度	○	
保護者	親子関係	○	社会課題である「小1の壁」に関して、インフラ整備や就労への貢献は一定の効果あり 保護者の生活の充実までは貢献できていない
	自分の生活	△	
	インフラ整備	○	
	就労への貢献	◎	
	学校	意識変化	
市民先生	影響	○	社会貢献意識の向上
企業	影響	○	

成果と課題（詳細）

①参加人数（アウトカム）

今後とも運営校拡大による社会性K P I 拡大を目指す。また市民、企業をさらにアフタースクールに巻き込み、“豊かな放課後”の実現する

- ・ 運営学校数増加に伴い、アフタースクールにおける**参加のべ人数10万人、実人数2千人**を突破
- ・ 事業K P I 含め、市民先生、企業数ともに昨年度の数值より大幅増

②エンパワーメント（どのくらい満足したか）

子ども、保護者ともに私立小における満足度の向上が課題

- ・ 子どもにおいては、昨年度に比べ**7%上昇**、保護者N P Sにおいても**上昇**。特に公立校のN P Sは高い数值に
- ・ 一方で全体の満足度としてはまだまだ改善の余地あり
- ・ 改善点では「利用者増による質の低下」「普段の過ごし方の充実」が保護者の意見として上位に
- ・ 公立校はもともとアフタースクールが存在しなかったので満足度高いと推測、**来年度の調査との比較**が重要

成果と課題（詳細）

②エンパワメント（子ども）

アフタースクールにおいて、多様な友だちと遊ぶことが1つの重要な目的であるにもかかわらず、エモーショナルの数値が低い

- ・ アカデミック（学校が好き、勉強が楽しい）、エモーショナル（他の学年の友だちと遊ぶ、違う意見を聞ける）では昨年度および一般と比べ、ともに低い数値
- ・ 多くの友だちと過ごすきっかけづくりや過ごし方の工夫が必要
- ・ **コンフィデンス（自信、チャレンジ）** では一定の効果あり

②エンパワメント（保護者）

アフタースクールはインフラとして定着するも
保護者自身の時間を確保するまでは至っていない

- ・ 保護者においては、**安心して仕事ができる「インフラの整備」** において、高い数値を得た一方、保護者の生活の充実を表す数値は低い
- ・ 子どもの好きなこと得意なことを見いだす効果は見られ、家での会話や発表会などで気づいたと推測。

成果と課題（詳細）

②エンパワメント（学校）

学校は一緒に子育てにあたるパートナーとしてアフタースクールを位置づけ

- ・学校においてはアフタースクールとの連携の中で一定の価値を見出している
- ・アフタースクールを社会的インフラとして認識しつつある

②エンパワメント（市民先生、企業）

市民先生、企業は定期的な参加から教育環境の改善の一員へ

- ・市民先生、企業においてはアフタースクールに参加することで社会貢献意識が芽生えている
- ・市民と企業という地域に眠るリソースの活用の効果がみられる

今後について

□ 一般データの抽出

全国各地の放課後クラブ等の子どもたちに同様のアンケートを実施し、一般データとして活用予定。

□ 社会性評価の信頼性

今回私立小2校、公立小2校からアンケート収集が実現したが、来年度は開校校含めて更なる収集を行い対象データを増やすことで社会性評価の信頼性向上を目指す。

□ 社会性評価の活用

私立小・公立小ともに、今回のデータを踏まえ今後のより良い運営に活かしていく。また社会性評価をオープンにしていくことでアフタースクールの効果、団体の信頼性向上に活用していく。